

環境事業を通じて地域社会から必要とされる会社を目指して

野村 進一 (のむら しんいち/千葉オイレッシュ株式会社 代表取締役)

1. 環境リサイクル事業取組の背景

私は、千葉県の中央部、君津市街から遠く離れた緑豊かな山あいの地、ブラックバス釣りで有名な亀山湖、今ではSNSで話題となっている「濃溝の滝」のある場所で、元禄元年から続く旧家の長男として生まれ育ちました。卒業後は、都市銀行に勤め、中小企業に経営アドバイスをを行う等の業務を行っていましたが、旧家の歴史を途絶えさせたくないという強い思いを抱いていた父から、実家に戻って家を継ぐよう懇願され、地元に戻ることを決意、働き口のない地元で働ける場所を作るため、自ら起業を志しました。

1980年当時の日本は、高度経済成長期から安定期へさしかかり、大量生産・大量消費のスタイルが見直され始めた時期でした。そんな折、全く新しい廃油リサイクル技術を研究する大学院研修生と出会い、事業の可能性を元勤務先でもある関連会社のコンサルタント会社の調査を基に、「廃油」リサイクル事業の道へ進むこととなりました。

2. リサイクル技術の特徴

潤滑油や機械油等の油は工場の機械を動かすためには無くてはならないものですが、劣化が進むと新しい油に交換され、使えなくなった油が廃油となって出てきます。

当時、劣化した廃油は一般に燃やすしかないと言われていましたが、再生の道を開いた技術が「凝集沈殿法」と呼ばれる手法です。

凝集沈殿法は、汚水や排水等「水」を浄化する一般的な手法として知られていたものの、

「油」に展開された事例はありませんでした。

数ある凝集剤候補から、油の中で金属粉やカーボン等混入したゴミを引き寄せ・成長させることのできる材料を選び出し、油に初めて凝集沈殿法を適用しました。この技術の特許化し、肝となる凝集剤をブラックボックス化することにより、他社が容易にまねできない技術を確立することができました。

再生された各種オイルは、低コストでバージン相当の品質のため、再生油として、更には、再生燃料油としてボイラーへ利用され、ユーザーが得られるコストダウンの効果は大きなものでした。

3. 新たなリサイクル技術の開発

創業から20年余りの間、再生油や再生燃料油は、安価な燃料を求める顧客ニーズに合致し、長く主力製品として同社の経営を支えてきました。

しかし、平成を迎え、環境問題が徐々にクローズアップされ、工場での3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動が活発になるにつれ、油は徹底的に使い込まれるようになりました。その結果、どんなにリサイクル技術に優れていても、含まれる油の割合が下れば、得られる再生油が減少する。リサイクル率の低下と回収コストの増加という大きな課題に直面するようになりました。

そのような状況において、原油価格の高騰を背景に、「ボイラーで燃やせるならどんな燃料でも構わない」と考える工場関係者が多い

ことを知り、廃油からゴミを取り除くのが難しいなら、ゴミごと再生燃料にして燃やしてしまえばいいのではという逆転の発想で開発されたのが、最大30%の汚水と特殊な添加剤を廃油に混合・攪拌することで固形分が適切に分散した新たな再生燃料「ブレンド燃料：RBF燃料® (Recycle Blend Fuel)」です。

現在、RBF燃料は手間やコストをかけても大きなコストメリットが得られるため、化学、鉄鋼、セメントなど数多くの顧客に受け入れられ、現在では生産が追いつかないほどの高いニーズを誇る、同社の主力製品へと成長しています。



<再資源化された燃料>

4. 人を大切にする経営を目指して

弊社の経営理念に

1. 役に立つ会社であらう。
2. 信頼される会社であらう。
3. バランスよく発展する会社であらう。

が掲げてありますが、特に理念3の「バランスよく」とは、経（道理・商道・不変・徳に繋がる）営（技術・商法・応変・益に繋がる）を理解して、「財務内容を充実することで」働き甲斐に結びつけ、社員の幸せ感を共有しながら発展することである、と説明しています。

この経営理念を形にするため、共に働く社員一人一人が働きがいを確認できるよう、社

員に経営内容を公開し、会社の現状を知ってもらう取組を進めています。これにより、社員は良いこと悪いことの両方に責任を持ち、どうすれば業績が上がるのかそれぞれが考え始め、その結果、会社に一体感が生まれ、風通しがよくなるという効果が生まれてきました。

更には定期昇給とベースアップは毎年実施、給与も大企業並みという待遇の良さで社員のやる気を引き出しています。

この「従業員を大切にする姿勢」「顧客を大切にする姿勢」そして「地域社会を大切にする姿勢」が評価され、同社は第4回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 審査委員会特別賞をいただきました。（平成26年）



<ちばアクアラインマラソンにオリジナルユニフォームで参加>

平成28年11月には、君津商工会議所の会頭に就任し、会社のみならず君津の中小企業の牽引役として商工会議所の活性化を始め、ビジネスチャンスの創出やPRにつながる様々なアイデアを繰り出し、オール君津の魅力向上に邁進しています。

これからも事業を通じて地域社会から「あって良かった」と言われるよう社員一同努力してまいりますので宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。